

野球 第100回全国高等学校野球選手権記念滋賀大会

準々決勝 彦根東 1 — 7 近江兄弟社

TEAM	一	二	三	四	五	六	七	八	九	R
近江兄弟社	5	0	0	0	2	0	0	0	0	7
彦根東	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

健闘及ばず準々決勝敗退



◀7回裏、今井悦央君(3-18)は得点のきっかけとなる安打を放った。

7月25日に皇子山球場で第100回全国高等学校野球選手権記念滋賀大会の準々決勝が行われた。本校は近江兄弟社高校と対戦し1-7で敗戦した。



▶主将の高内番君(3-6)を中心として団結した。



▶7回裏、適時打を放った増居君

新チームに思いを託す

速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

この試合で先発のマウンドを任されたのは増居翔太君(3-5)。1回表、増居君が先頭打者を三振に仕留めて好調な立ち上がりを見せたかと思えたが、ここから制球が乱れ三者連続で四球を与える。一死満塁となり、次の打者にライトへの適時打を許し2点を先制される。なおも走者一、三塁で続く打者にも適時打が飛び出し走者二人が生還し、2点を追加された。さらにこの後も1点を追加され、本校はこの回で5点を失った。2回から4回までは両チーム無得点で、5回表にも相手チームに連打で2点を追加された。0-7で迎えた6回表、この回から原功征君(3-6)が増居君に代わって登板し、この回を打者三人で抑えた。直後の6回裏の攻撃、本校は大きなチャンスを迎える。二者連続で四球を選び、無死一、二塁の場面で1番朝日晴人君(3-4)がレフトへの安打を放つ。無死満塁と点を返しておきたい場面であったが、三振、ファールフライ、内野ゴロに打ち取られ、得点することができなかった。7点差をつけられ、7回コールド負けも見え始めた7回裏、一死から安打と相手のエラーで走

者一、二塁として、6回からファーストに入っていた増居君がレフトへ適時打を打ち1点を返した。コールド負けを回避し、8回からは増居君が再登板し球場からは拍手と歓声が上がった。増居君は8回の守りを無得点に抑え、直後の攻撃に望みをつなぐ。しかしこの回本校は打者三人で打ち取られ、試合は9回に入った。9回表は打者三人で抑え、「迎えた9回裏の本校の攻撃。二死者者なしとなり、代打の水谷洗太郎君(3-7)が打席に立った。水谷君の初球を捉えた当たりはファールフライとなり、試合は終了した。

この試合について監督の村中隆之先生は「負けるときはこのような負け方をするのだろうか」と思っていた。初回はいつもと違う雰囲気になって残念な立ち上がりだったが、コールド負けになる状況で最後に意地を見せてくれた。負けて悔しかったが8、9回も野球をさせてもらったのはありがたかった」と振り返られた。

今夏は準々決勝で敗れたものの、この試合の翌日から新チームの練習が始まっている。新主将・山岡右京君(2-5)率いる新生野球部の活躍に期待したい。